

2022年9月27日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人調布ハンディキャブ
代表者・役職名 氏名 理事長 山崎雅人



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

車イス移動車両のエンジン関係の整備

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1979年に調布市が福祉事務所で開始した事業が、調布市社会福祉協議会に業務委託されました。その後、事業遂行上法人格が必要となり、2006年4月に当時のボランティア仲間が要請をうけ「特定非営利活動法人調布ハンディキャブ」が設立されました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

車イスのまま乗降可能な福祉車両を5台所有しておりますが、うち1台が使用年数、走行距離的(13年、約13万km)にも経年劣化によりエンジン周りが故障。現在使用不可につき移送活動に支障がでているため、修理整備し一人でも多くの移動制約者に気兼ねなく外出できるよう利用していただきたいと考えました。これからの高齢社会の進行により、通院・通所などの移動手段は一般タクシーや介護タクシー等がありますが、当法人はNPOとしてこれらの営業用タクシーを補完する位置づけとしてこの活動の必要性は今後さらに増す方向にあります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

現在5台の福祉車両で送迎運行しておりますが、うち1台が経年劣化によりエンジン周りの故障で走行不可、現在運行に使用できない状況です。そのため、車両不足によりすべての予約にお応えできず、一部運行をお断りせざるを得ない状況です。より多くの移動制約者の皆様の社会生活への参加を支えるためにも、故障中の車両を修理・整備し運行に復帰を目指します。安全・安心・快適な福祉運送を行い、新たな利用者のためにも現在の利用者のためにも効果が大きいと思っております。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

使用不可だった車両を整備することにより、運行をお断りする件数が激減しました。これにより多くの利用者のニーズに応えられるようになり、公共の交通機関を利用することが困難な方の社会参加への一助になっていると考えております。また車両を修繕し運行可能件数が増えたことにより、新規利用者獲得への一歩となりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

より多くの利用者の社会参加へのお手伝いが可能となり、運行件数が増えることによってドライバーへの負担も増えることが懸念されます。利用者とドライバー双方が安心・安全に運行に臨めるよう支援体制をより強化いたします。車両整備により運行の効率化が図れたため、広報活動も継続し当法人のサービスを必要としている方に情報を届け、より多くの社会参加のお手伝いをしていきたいと思っております。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

